

経営理念	〈経営目標〉一人一人の子どもを大切に、保護者に信頼され、地域に愛される保育所をめざす 〈保育目標〉すくすく おれんじ げんきなこ 〈子ども像〉・元気に遊べる子ども・自分の思いをすなおに出せる子ども・優しく心豊かな子ども・意欲のある子ども 〈保育所像〉・子どもの笑顔が輝く保育所・子どもの育ちを支える保育所・保護者や地域から信頼される保育所・幼稚園と連携して子どもの育ちを支える保育所 〈保育士像〉・子どもとの信頼関係を大切に作る保育士・意欲を育む環境を考える保育士・チームワークを大切に作る保育士・保護者とともに良い協力関係を築く保育士・専門性の向上に努める保育士
------	--

今年度の重点目標	評価項目	自己評価		保育所関係者評価		改善策等	
		達成状況	評価	考察	評価		
職員の育成・資質向上や運営	自己研鑽に努めながら、保育力の向上を目指す	園内外の研修に意欲的に参加する	・今年度は一人ひとりが研修に意欲的に参加し、自身の保育を振り返ることが出来た。園内研修に参加し、学んだことを保育に取り入れたり、職員間でよく話し合い、園全体として高まることが出来たと思う。また、昨年度の課題をしっかりと踏まえ、ミドルと研究主任が中心となって、園の保育、研究を考えていったことも、職員の一体感が生まれていった要因だと思われる。また、研修に参加できない職員に共有ができるように、研修内容の掲示をしたりクラス間で子どもの姿を通して伝えあいをしたりなど園全体で共通理解ができるように努めてきた。 ・園外研修にもできるだけ参加し、学んできたことを他の職員に伝えることで研修に参加できない職員にも新たな気づきやうまれるなど職員間で学び合う機会にもなった。 ・研修等を重ねるなかで、他者の多様な意見を聞き、多様な視点を知ること、一人ひとりが自身の保育を振り返り、考えていくことが出来たことが、園全体の保育力の向上につながったのではないかと感じる。	A	昨年度の課題から改善に取り組み、情報の共有化、学び合いができていますと感じました。日々研修に取り組み、協議を重ね、保育力の向上に向け、努力していると思います。協議をする中で、他の職員の間を通過して違う見方があることに触れ、子どもの見方も変わり保育も豊かになると思います。園内外の研修で学んだことを参加できなかった職員にも共有できるように工夫もされています。また、学んだ内容を他の職員に伝達する取り組みはずばらしいと思います。情報を共有していくことで園全体の指導力・保育力も向上していくし、一体感も生まれてくると思います。	A	次年度は今年度の学びや培ってきたことを継続していくとともに、新たな子ども（保護者）、職員体制のなかで研鑽し高めあっているような体制づくりを目指していく。
	保育所の安全計画を見直し、安全対策を行う	火災・地震時の対応の仕方を共通理解し、訓練で実践できるようにする	・昨年度の子どもの避難誘導だけに重点を置き、他の対応が不十分という反省をもとに改善をはかってきた。子どもの安全確保はもちろんのこと、様々な場面を想定してどのような行動をとることが最善かを意識するようになってきた。職員間で声を掛け合い、役割分担を意識すること、災害時を想定しての環境の見直しなども考えるようになった。 ・訓練の度に新しい気づきや改善点が見つかり、そのことを職員間で話し合いができたことも成果だと考える。	A	昨年度の反省をもとに本年度の取り組みを変えいくことは大切だと思います。いろいろな想定時間で行うこと、また所長・副所長が不在の想定など、様々な場合、場面を考えてのマニュアル作成や周知も必要だと感じました。日々の訓練が知識の定着だけでなく、行動として定着できるように、叱咤の時に対応できるように引き続き取り組んでください。職員間で施設・設備の安全面に気を配るとともに、工夫した内容が実施できていることは評価したいと思います。	A	今年度、十分にできなかった、時間帯や場面を想定しての訓練をしていくとともに、保護者アンケートからも防災意識への関心が高いことが伺えるので、保護者に対する発信等についても考えていく。
保育・教育活動の充実	子どもの興味・関心に応じて遊具・用具・材料が選べる環境づくりを行う	子どもが遊んでみたくなるような園庭環境づくり	・年度当初に教材研究を園内研修として取り入れたことで、良い刺激になっていたと思う。その後は個々やクラス・学年間で教材研究を行ったりと意欲的に取り組むことが出来た。 ・年間計画や毎月のカリキュラム会等で子どもの育ちや興味に添った遊びや環境を予測して、遊具等準備をしているが、保育者と子どもの思いにズレがあったり、タイミングが合わずに繰り返し遊ぶまでには至らなかったこともあった。	B	教材研究を園内研修として取り入れたことが実践につながったと思います。子どもにとって遊びの中で学んでいくことが一日の活動の主ですので、これからは子どもたちがあれこれと考え、いろいろな遊びが試せる環境を整えていってください。子ども理解については今後も園内で見合い、多面的に捉えて学んでいってください。修繕箇所や備品・設備の老朽化具合、遊具等を見て、もう少しお金をかけてはどうかと感じました。子どもたちのより良い成長を願うためにも保護者と連携して声に出してみてください。	B	今後も子どもの育ちや興味に添った遊びや環境の準備をしていけるように、研修等も取り入れながら園全体で取り組んでいく。また、設備・備品については、子ども課と相談して改善していく。
	基本的な生活習慣が身につくための指導・援助を行う	整理整頓の習慣が身につくような環境・指導・援助の工夫	・日々繰り返し丁寧に関わってきたことで、おおむね70%の子どもが所持品の始末や玩具の片づけなどを自らしようとする姿が見られた。 ・子どもが自らやりたくなる、わかりやすい保育者の声かけや環境、動線により定着していけるように今後も継続することが必要だと思う。 ・特に2、3歳児は昨年から継続的な取り組みと保護者の協力もあり、行き帰りの荷物を自分で持つということが定着しつつあると感じる。	B	保護者と連携を図り、子どもと保護者両方の実態を把握し、可能なことを実践していってください。行き帰りの荷物を持つことは、保護者の側から見ても子どもとのコミュニケーション作りの時間になっています。保育所の段階から先生方が声かけをして、子どもが自分で片付けようとする態度を育ててくれていることがわかりました。生活の基本となることなので取り組みの継続をお願いします。	B	保育者の丁寧な関わりで繰り返し伝えられるという自園の良さを今後も継続していきながら、低年齢のうちから習慣づけていけるような関わりや環境の工夫等を継続して行っていく。また、保護者への啓発と共に家庭と連携をとり、定着していけるように取り組んでいく。
	一人一人の子どもの発達に応じた、丁寧な関わりを行う	保育の振り返りをもとにした改善と実践	・各クラス、学年で子どもの姿を通しての話し合いが日々行われ、同じような見方、関わり方ができるように努めていた。日勤の職員だけでなく午前・午後の短時間職員ともできるだけ連携を取れるように取り組んでいた主任たちの意識が良い実践につながった。	A	時差出勤で職員の入れ替わりのある中で、職員間で情報を伝達していくことや話し合いの時間を確保することは難しいと思いますが、工夫して共有できるように努めていると思います。園での遊びや生活のことなど、子どもからも話を聞き、日々、丁寧に取り組んでくれていることがよくわかります。	A	一日の中で複数の職員が関わる保育所なので、職員がより良い関係性のなかで連携をとることがより良い保育に繋がっていく。そのためにも保育をしっかりと伝えられるような計画や振り返り等が大切なので、カリキュラム会等も時間を有効活用しながら行っていく。
地域に開かれた園づくり	園で大切にしていることや子どもの育ちが保護者に伝わるような便りや掲示を積極的に発信する	子どもの育ちが伝わる発信の工夫	・昨年よりは発信の回数を増やしたり掲示の仕方の工夫はできていたと思うが、担任たちの実感として保護者の反応があまり感じられていなかったことから、保護者の思いを確認する機会や方法を探っていくことが今後の課題である。 ・保護者アンケートから担任に気軽に話ができにくいと思っている保護者が複数いることは課題として取り組んでいく。	B	毎日、連絡帳を使って保護者とのやり取りを行うなど、個人の情提供はできていると思います。お便りに載せてある情報の中に、子育てへのアドバイスとなる発達段階における特徴や注意事項も載せてあることで子育てに不安のある保護者にとって心強く感じていると思いますし、参考にしながら読んでいる方も多いと思います。継続してこうした子育てに関する情報をこまめに発信してもらえればと思います。コロナ禍で参観行事が少ない中、行事や園の様子をクラスだよりやドキュメント等で様子を伝えてくれて、保護者としてもありがたかったです。	B	連絡帳やお便り・ドキュメントでの発信は今後も意識して継続していく。内容や掲示場所についても保護者が見やすい場所、内容の工夫をしたり、送迎時に保護者と対話をするときにドキュメント等を話題にしながら伝えることも取り入れる。それと共に、子ども理解についても研修等で学びながら、伝えたい内容の精査も考えていく。
	地域の自然や人材などの教育資源の活用	地域の自然などの教育資源を活用した保育を展開する	・コロナ禍で昨年から地域との交流行事が減少している。しかし、地域の人との交流は難しいが、地域の自然に触れ、自分たちが暮らす地域を知ることはできると考え取り組んできた。 ・身近な自然物を見たり、触れたり、採取することで遊びも豊かになり、職員の自然を取り入れた保育に対する考え方も柔軟になった。	A	地域等の交流ができない分、視点を換え、工夫をしてよく遊んでいると思います。自然の素材を活用した保育をたくさん取り入れていくことで、子どもの自然への興味・関心を高め、情操や心情を豊かにしていくと思います。保育に自然物を取り入れることは、以前は当たり前のように体験できていたが、今は保育所から投げかけていかないと難しくなっていると思うので、この取り組みは今後も続けていってください。また、職員の保育の引き出しも増えたことも成果だったと思います。香我美地区の良さである、保幼小中の立地を活かした連携も感染状況に応じて取り組んでください。	A	地域の自然に触れる機会を持つことや、遊びに自然物を取り入れるということは今後も継続して取り組んでいく。また職員も地域にかかわることや、自然物を使った遊びを保育に取り入れることが少なくなっているため、意図的に計画に入れ取り組んでいく。感染対策を行いながら、保幼小中の連携についても考えていく。

【評価基準】 A：十分満足 B：おおむね満足 C：もう少し努力すべき D：大いに努力が必要